



沖縄の企業の工場見学風景



展示会風景

人々との出会いに感謝

ヒカリハイテック(株)

代表取締役社長 木村 和義さん

取材のため、刃物製造企業であるヒカリハイテック(株)を訪れた。その日は沖縄の企業が工場見学に来ていた。全国からよく工場見学に見えるそう。

現在、全国十三都道府県の企業と取引がある。今年の五月十三日には新事務所と第二工場をスタートさせ、スペースは従来の二倍になった。まさに拡大基調にある企業である。

社長の木村和義さんは、人との出会いをとっても大切にされる。それらの経験が会社経営に大いに生かされていると

いう。その中で研磨業から刃物製造企業に転身するきっかけを与えた貴重な出会いがあった。二十年前のことだ。

「その方は当時、ある会社の専務か、常務だったと思います。その方からNCルータ加工についての相談を受けたのです。」どうい、うことだろうか? 「木材を加工切削すると材料が黒く焼ける現象についてでした。刃物がすぐ摩耗してしまつて摩擦熱で材が黒くなるのです。」

当時ヒカリハイテックは研磨業の会社だったが、何とかそれに応えたいとの一心で角

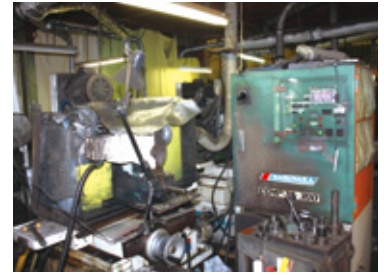




超合金カッター



NC成型加工機
(超合金を形成する)



超合金研磨機



超合金裁断機

度調整などの試行錯誤を繰り返したという。でもだめだった。そして、この手の刃物は既製品しかなく、適合する刃物が全国になかった。そこで一念発起。「ないなら自分の会社で作ろう!」
工場長と二人で開発に取り組んだが、作っても作っても失敗ばかり。その後、浜松市の素材メーカーに出かける機会があった。「そこで、その素材が鉄と超合金でできている事を初めて知ったんです。そして超合金はタングステンとコバルトの焼結材。タングステンの割合によって、硬くなったり、柔らかくなったりする事も理解できました。」

「曲面用超硬質チップ使用した刃物の製品化は、国内で最初だったと自負しています。これによってNC加工の生産性が格段に良くなったと思います。」刃物製造では素人であった企業が画期的な製品を生み出すまでに成長した。その気概と意欲はすごいと思う。さて、「その方」からは営業力を強化するようにも、強い感化を受けたという。



エクセル1 (E1)

その後も試行錯誤を重ねた。特に鉄と超合金は膨張率の違いから接着がむずかしいのだ。
そしてついに曲面用超硬質チップを使用した製品が完成した。「エクセル1(E1)」だ。「曲面用超硬質チップ使用した刃物の製品化は、国内で最初だったと自負しています。これによってNC加工の生産性が格段に良くなったと思います。」刃物製造では素人であった企業が画期的な製品を生み出すまでに成長した。その気概と意欲はすごいと思う。さて、「その方」からは営業力を強化するようにも、強い感化を受けたという。

「今後は営業力強化が急務」考えるようになり、早速販売部を設置。「今思えば、これで北海道から沖縄まで販路が広がり、超硬刃物製造会社として確立できたと思いますね。」
人との出会いが、会社成功に結びついている。良い出会いは大切しなければと考えさせられる。

もう一つの出会いにもふれられた。奥様だ。「創業以来経理など、会社内部の全般を任せています。良いパートナーに恵まれたと感謝しています」と話される。

さて、応接室には大きな絵画が掲げられている。絵画が趣味なのだ。それは美術展入選作。美術部出身の筆者としばしの時間、談義に花が咲いた。「構成がいい…。色使い：等々」。これも一つの出会いと考えておられるようだ。



大野城まどかぴあ総合美術展
入選作品



投影機
(100 / 1mm 単位で誤差を見分ける)

「現在十三都道府県で、当社の刃物を使っていたいただいています。数年先には二十四都道府県くらいに拡大できればと考え、頑張っていきたいと思っています。会社スペースも拡大しました。これを機に人々との出会いに感謝しつつ、夢を追いながら、一層精進して行きたいと思っています。」と話されている。



NCマシンニングセンター
(鉄の加工をする)